

伊賀流自治の視点

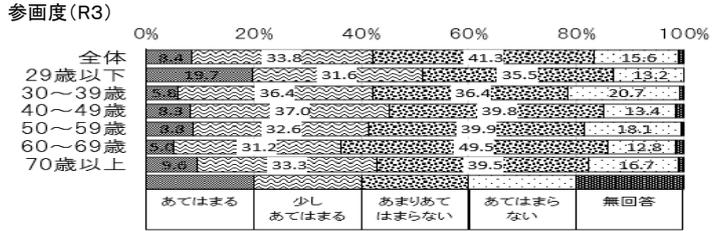
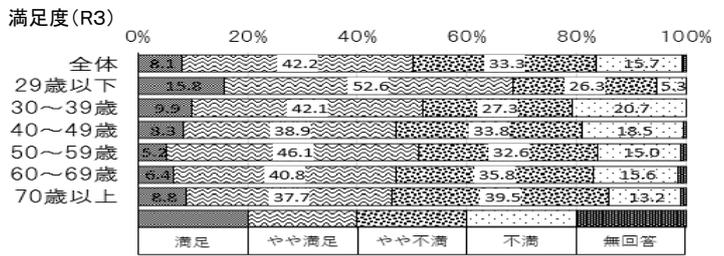
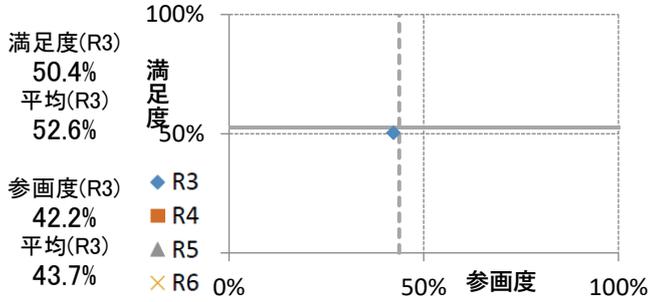
【主担当部局】

産業振興部

・伊賀市の観光資源の掘り起こしと磨き上げを行い、効果的に情報発信を行うとともに、観光客のニーズや価値観の多様化に対応した受け入れ態勢の整備・充実を進めます。
 ・多様な主体による観光誘客事業への参画を促すとともに、観光施策を取り巻く環境や観光客のニーズの変化に迅速かつ適切に対応します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	観光誘客と情報発信 地域おこし企業人交流プログラム等を活用し、観光地域づくり法人(DMO)の態勢強化を図るとともに、連携して効果的な情報発信や観光案内機能の充実を行い、観光客の増加を図ります。また、伊賀ならではの観光コンテンツ等を提供する地域プレイヤーの人材育成を進めます。さらに、忍びの里「伊賀」ならではの本物の忍びの「心・技・体」を体現できる体験プログラムの造成や看板設置など外国人観光客の受け入れ態勢づくりを進めます。	○観光戦略経費 ・DMOの形成支援 ・観光戦略の策定(観光振興ビジョン:中間案)	成果指標	旅行消費額					
			成果指標の説明	観光地域づくり法人(DMO)が行っているモバイルアンケート結果による旅行消費額(百万円)(3月末)※2019年(基準値)から毎年5%の増加を見込む。					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(円)	11,953	11,827				15,257
2	観光客の受け入れ 地域プレイヤーが年間を通じて集客が見込める新たな事業・サービスを創出・発信します。また、さまざまな主体が参画・連携できる環境を整え、観光客の受け入れ態勢を充実させるとともに、本事業により地域の人々が地域の魅力を再発見する機会を創出し、シビックプライドの醸成につなげます。さらに、「忍者」を入り口・切り口として当市の地域資源を効果的にプロモーションするとともに、受け入れ態勢の充実を図ります。さらに、忍者を体感できる施設を整備し、活用することで、観光客の満足度向上や周遊拡大、滞在時間増加による消費額拡大を図り、観光まちづくりを推進します。	○忍者市プロジェクト事業 ・にぎわい忍者回廊プロジェクトの推進 ○着地型観光推進事業 ・伊賀ぶらり体験博覧会「いがぶら」の開催支援 ○観光施設維持管理事業	成果指標	リピーター率					
			成果指標の説明	観光地域づくり法人(DMO)が行っているモバイルアンケート結果による2回以上のリピーター率(%) (3月末)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	48	59.02				53
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度、参画度ともに平均値と同水準。
- ・29歳以下の満足度、参画度が高い。
- ・60歳以上69歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	<p>効果が出ている点</p> <p>DMO会議(トップ会議1回、PT2ヶ月に1回、WG毎月2回)を定期的開催したことにより構成団体の意識統一と情報共有、研修会等の実施により構成団体職員のスキルと意識の底上げを図ることができた。</p> <p>課題</p> <p>DMO組織確立のための人員確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の積極的な登用と観光プロ人材の育成。 ・DMOが事業者サイドと連携する体制づくり ・伊賀市観光振興ビジョンに基づいたDMO形成・確立計画見直し検討 	やや遅れている
2	<p>効果が出ている点</p> <p>コロナ禍で初めていく観光施設が敬遠されたこともあり、リピーター率が向上した。いがぶら事業においては、参加者1,149人、参加率84.5%、顧客満足度は過去最高となる99%の結果を得ることができた。</p> <p>課題</p> <p>年間を通じて集客が見込めるような新たな事業・サービスの創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いがぶら体験プログラムの通年化 ・伊賀忍者道場の通年開設 	計画通り進めている
3			
4			

伊賀流自治の視点

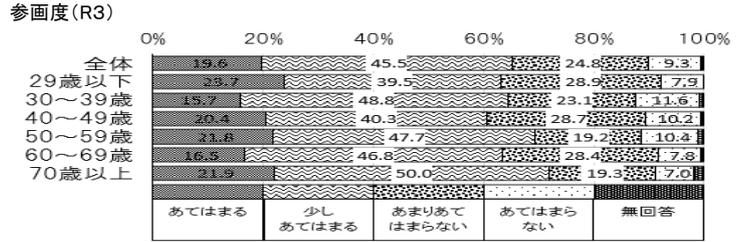
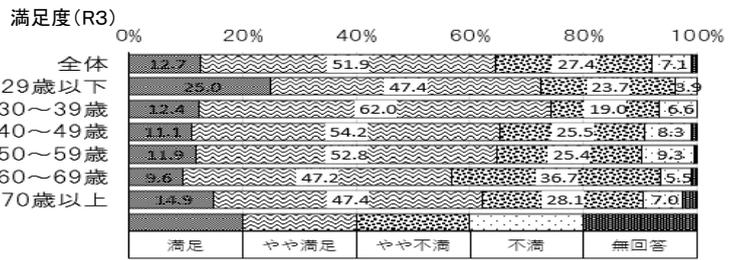
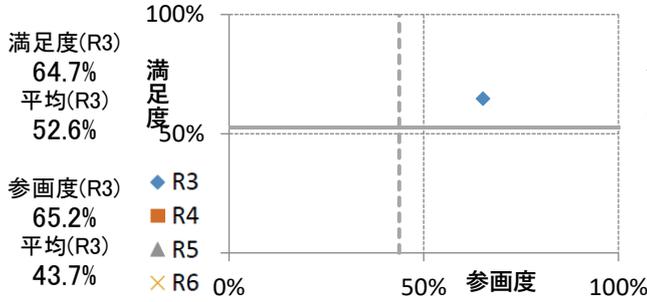
【主担当部局】

産業振興部

・人・農地プランの作成や、日本型多面的機能支払事業の取り組みを支援するとともに、集落営農組織の設立や担い手農家の育成に努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	農畜産物の生産振興 伊賀米、伊賀牛をはじめとする農畜産物等のブランド力を向上するとともに、6次産業化など新しいビジネスモデル導入を支援し、農業所得の確保に向けた取り組みを進めます。伊賀牛については、子牛の繁殖から肥育・出荷まで、地域で一貫した体制づくりに取り組みます。「伊賀市菜の花プロジェクト」についてもさらに進め、伊賀産菜種油のブランド化、菜種栽培農家の支援を行います。あわせて、省力化・農作業の精緻化をめざし、スマート農業を推進します。地域ぐるみで鳥獣害被害を軽減する活動を支援します。CSF(豚熱)をはじめとした家畜伝染病の防疫体制を強化します。	○伊賀米生産振興経費 伊賀市農業再生協議会による経営所得安定対策推進事業、伊賀米振興協議会の支援 ○循環型農業実現モデル推進事業 伊賀市菜の花プロジェクトの支援、搾油用ナタネ種子の配布 ○集落営農支援事業 農作業の省力化に資する機材等購入費支援 ○鳥獣害防止事業 鳥獣害に取組む住民自治協を支援 ○畜産振興事業 伊賀牛地域内一貫肥育モデル事業 豚熱再発防止ワクチン接種支援事業	成果指標	伊賀米の1等米比率					
			成果指標の説明	伊賀米の1等米比率					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(%)	53.2	72				70
2	農業・農村の多面的機能維持向上 多面的機能支払交付金事業の既活動組織には、取り組みが今後も継続できるよう研修や支援体制を強化します。未取り組み地域への地域主体による保安全管理活動の実施に向けた推進を図り、農業・農村の有する多面的機能の発揮促進に努めます。	多面的機能支払交付金事業により、地域で共同活動組織を設立し、地域毎の独自の活動を支援することで、地域のつながりや農業・農村の保全、水源の涵養、良好な景観形成、等の多面的な機能が発揮できるよう取組を行う。	成果指標	認定農用地面積					
			成果指標の説明	多面的支払交付金制度における認定農用地面積 ※多面的支払交付金制度とは、地域の農地を地域内組織において維持管理を行うことを目的としており、当該組織に交付金を交付している。 ※認定農用地面積とは、当該交付金において維持管理を実施している農用地面積を指す。					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(ha)	4,057	4,025				4,250
3	担い手の確保・育成 担い手や集落営農組織の立ち上げ及び運営を支援し、農地が適正に維持管理され、経営力が強化される取り組みを進めます。条件不利地域では、中山間地域等直接支払事業への取り組みを支援します。新規就農者の確保に向けて、関連団体と連携した支援体制や環境づくりを進めます。	○農業次世代人材投資事業(経営開始資型) 経営状態が不安定になりがちな新規就農者に対し、農業経営を開始してから3年目まで150万円、4、5年目は120万円を交付する。 ○中山間地域等直接支払交付金事業 耕作条件の不利な中山間地域等において、集落等を単位に農用地を維持・管理していくための取決め(協定)を締結、農業生産活動等を行う場合に交付金を支給する。	成果指標	認定農業者数					
			成果指標の説明	認定農業者数					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(人)	230	214				240
4	地産地消 学校給食に地域の優れた食材を積極的に提供し食育を推進することで、未来の消費者を育成します。地域の消費者が地元食材を購入しやすいしくみを整えます。	○特産農産物等振興事業 小中学校給食伊賀産食材利用促進事業で学校給食に伊賀産食材を利用する取組「スマイル給食」を行う。	成果指標	伊賀スマイル給食 実施回数					
			成果指標の説明	伊賀スマイル給食実施回数					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(回)	0	19				12

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度、参画度ともに高い(平均値より10%以上)。
- ・30歳以上39歳以下の満足度が特に高い。
- ・70歳以上の参画度が一番高い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊賀市鳥獣害対策協議会を通じて、侵入防止柵の補修・強化と鳥獣被害防止活動に必要な資材購入費用の支援を行うことで、自主的に鳥獣害対策事業を実施する自治協が増加した。また、シカの被害が甚大な地区に対し、鳥獣被害防止対策について出前講座を実施し、地域住民と捕獲者が協力して捕獲檻を管理する体制づくりを勧めたところ、シカの被害が減少した。 ・伊賀市集落営農支援事業においてスマート農業機械の導入があり、先進的な取組が近隣の集落へも波及している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年のシカの個体数が2,000頭以上あり、さらに効果的に減少させるための捕獲方法の検証を進める。 ・サルが増えすぎないように、頭数及び群れの行動の監視を続ける必要がある。 	<p>伊賀牛地域内一貫肥育モデル事業は1年目の活動を検証して肥育農家に浸透する活動につなげていく。</p> <p>伊賀市菜の花プロジェクトは栽培面積拡大に向け新規農家等への啓発により作付面積の増加が図られた。継続して安定した収量を確保し、搾油施設の稼働率を上げていく。スマート農業の普及については、先進導入事例を検討組織に紹介し、補助団体へ視察等の受け入れ相談をしていく。</p>	計画通り進めている
2	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地をはじめとする地域資源(農地・水路・農道等)の維持管理や補修更新を行う地域の共同活動組織が設立し、地域独自の様々な共同活動を支援することで、地域のつながりや農業・農村の保全、水源の涵養、良好な景観形成、等の多面的な機能が発揮されている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既活動組織では高齢化や組織の担い手不足により、共同作業の規模縮小や休止組織の増加が見込まれるため、今後も継続した取り組みができるよう研修や支援体制を強化する必要がある。また、引続き未取組地域への事業推進に努める必要がある。 ・農村の秩序ある土地・水利用を図りながら、農業生産基盤と生活環境の整備を一体的・総合的に実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動組織の広域化を推進することや、継続した取り組みが行えるよう支援体制の強化を進めていく。 ・農業用施設の機能診断・補修・更新等を効果的に行うことにより、施設のライフサイクルコストを削減していく。 ・農村整備事業を円滑に行うために、地籍調査事業の実施面積を拡張していく。 	計画通り進めている
3	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等直接支払交付金は70集落協定を締結し、合計883haの条件不利な中山間地域の農地を守る活動ができています。 ・市、県、JAが連携を取りながら情報共有を図り、就農希望者と同時に面談することで効率を図ることができています。また、移住者が就農希望する場合は、移住コンシェルジュと連携を取っている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等直接支払交付金は取組をおこなっている構成員の高齢化によりマンパワーが不足してくる傾向にある。 ・農業者の高齢化、後継者不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等直接支払交付金では、集落の将来像を話し合うという活動も含まれていることから、集落協定での話し合いの機会が増えるよう現地確認や活動ヒアリングをとおして働きかけをおこなう。 ・関係機関との連携を強化し、就農希望者が相談しやすい環境を整える。また、伊賀市認定農業者協議会の組織力を強化するとともに、連携を図りながら情報収集に努める。 	計画通り進めている
4	<p>効果が出ている点</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は月1回ペースで試行していたが、月2回を目標に回数を増やし、仕入れ元であるJAとの協議により使用する伊賀産食材の種類を増やすことができた。より多くの食材を使用することにより伊賀産食材を知る機会が増えたり、給食だよりを通して各家庭に伊賀産食材を知ってもらおうことで、その効果が波及している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 天候等で野菜など、要望どおりの食材供給ができない場合がある。その際には代替材料の準備や、メニュー変更などが生じる場合がある。給食センター等と供給元であるJAと連絡調整を深め、引き続き取り組みやすい制度にしていこう。 	<p>令和3年度事業を終えての学校や給食センターからの要望について、供給元のJAと改善点の協議をおこなう。また、学習を深めるため、生産者の声を聞く機会としてゲストティーチャーなどについても検討をおこなう。また、令和3年度の食材供給可能リストをさらに精度を高め、新しい品目についても供給可能かどうか検討をおこなう。</p>	計画通り進めている

伊賀流自治の視点

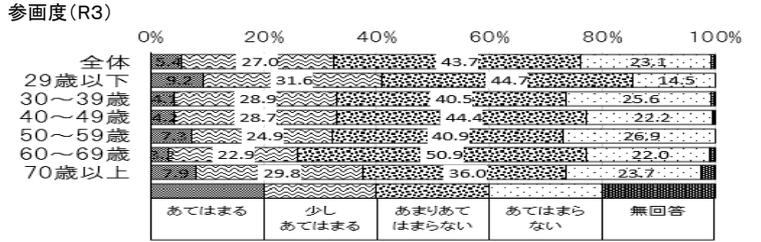
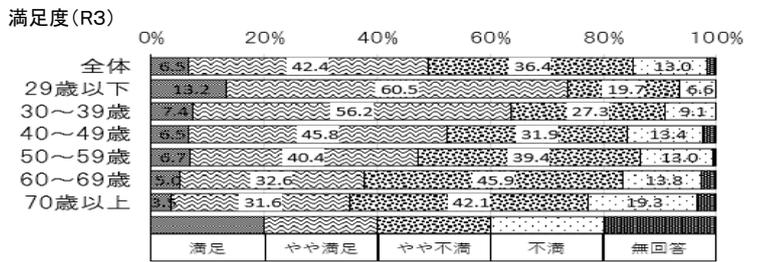
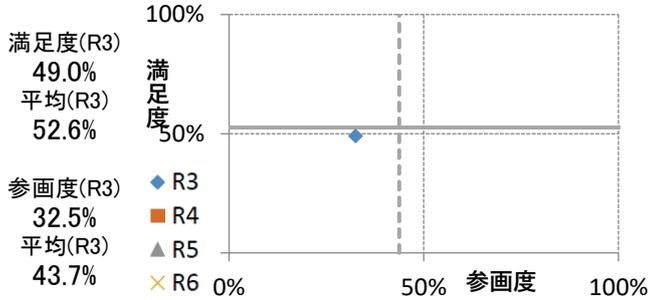
【主担当部局】

産業振興部

・間伐等の推進・林業事業体の育成・森林経営計画の策定等を支援し、森林が本来の機能を発揮できる取り組みを進めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	森林環境の整備 森林環境整備のため、間伐施業に取り組みます。森林の境界明確化を行い、森林経営計画の策定を進めることで、森林施業の合理化を進めます。各種講習会等を開催し、新規林業就業者の支援を行います。	【間伐】 ○森林環境創造事業 ○流域防災機能強化対策事業 ○未整備協定林整備業務 ○緊急間伐・搬出間伐推進事業補助金 ○みんなの里山整備活動推進事業補助金 【境界明確化】 ○森林境界明確化事業補助金	成果指標	境界明確化 実施面積					
			成果指標の説明	森林境界明確化事業(※)実施面積 ※計画的かつ適切な森林整備の推進を図ることを目的として森林境界を明確にする者に対して補助金を交付する事業					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(ha)	186	223				200
2	森林資源の利活用 市民・地域・行政が連携して、森林整備・人材育成・担い手の確保・木材利用の促進や普及啓発を目的とした「伊賀市未来の山づくり協議会」を組織して、森林環境等の整備や林業発展に取り組みます。 木材資源を有効に利用するため、木質バイオマス利用を推進します。公共施設等をはじめ、民間施設、住宅等に伊賀産材を活用し、地域内利用を促進します。	○伊賀市未来の山づくり協議会 各分会事業 ○緊急間伐・搬出間伐推進事業補助金 ○未利用間伐材バイオマス利用推進事業補助金 ○伊賀産材ブランド化事業補助金	成果指標	未利用間伐材 搬出量					
			成果指標の説明	未利用間伐材バイオマス利用推進事業(※)における搬出量 ※森林の適正な管理及び未利用間伐材の有効な利活用を促進するため、未利用間伐材を搬出する者に対して補助金を交付する事業					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(t)	1,550	1,828				2,000
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度、参画度ともに平均値より若干低い。
- ・29歳以下の満足度、参画度が高い。
- ・70歳以上の満足度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ・森林境界明確化事業を推進することにより、森林施業及び施業地の集約化を促進する。 ・森林施業地に、木製標識の設置により、市民に各事業で施業を実施したこと及び事業効果の周知を図り、森林の持つ公益的機能への理解を深める。 	計画通り進めている
	課題		
2	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の地域内循環のしくみの再構築を推進するため、伊賀市未来の山づくり協議会の各部会において施策検討を行う。 ・森林資源の利活用及び地域循環を推進するため、補助金申請書類の簡素化を検討し、補助金申請数及び木材搬出量の増加に繋げる。 	計画通り進めている
	課題		
3			
4			

伊賀流自治の視点

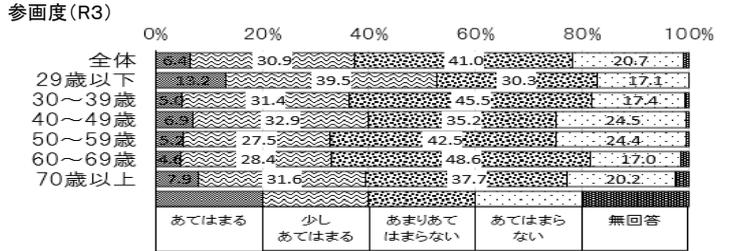
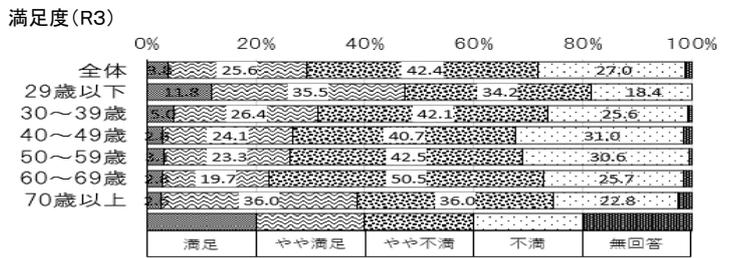
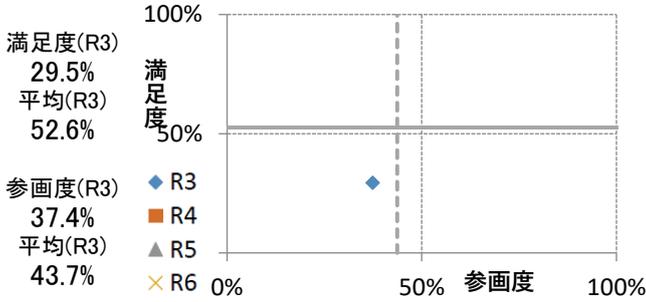
【主担当部局】

産業振興部

・ 城下町のたたずまいを取り戻し、城下町に残る伝統的な文化や技を守り育てることによって、中心市街地の魅力を高め、地域住民が主体となって事業に取り組む体制を強化し、その魅力を市内外に発信します。
 ・ 中心市街地を取り巻く環境や住民ニーズの変化に敏速かつ適切に対応します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	市街地整備 第2期伊賀市中心市街地活性化基本計画の事業を進め、中心市街地の賑わいを取り戻します。城下町の雰囲気やたたずまいを守りながら、住み良い住環境の整備を進め、まちなかへの居住や起業を生み出していきます。市民の地域への誇りや愛着を育むため、まちなかでのイベントを官民が協働で取り組んでいきます。旧上野市庁舎の保存活用のため、基本計画、基本設計をはじめサウンディング型市場調査の実施結果を基に最適な機能配置、大規模改修の範囲等を精査するとともに、最適な公民連携手法による事業推進を図ります。	○市街地整備推進事業 ・赤井家住宅指定管理 ○街なみ環境整備事業 ・国交省補助事業(道路美装化) ○中心市街地活性化事業 ・第2期中活計画進捗管理 ・ライトアップイベントお城のまわり	成果指標	中心市街地の人口社会増					
			成果指標の説明	最新値を基準とした中活計画の考え方に基づいた累計値 中活計画では年11人の人口社会増を目標としている。 令和2年度の最新実績値は27人社会増なので、この数値を基準として中活計画の考え方に従い、R03年度38人、R04年度49人、R05年度60人、R06年度71人(累計値)とする。					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(人)	27	-6				71
2	中心市街地の商業の活性化 空き店舗の所有者に対し店舗の活用意向を調査し、物件情報をまとめます。同時に、創業・起業希望者に空き店舗情報を提供し、空き店舗解消の取り組みを進めていきます。実施主体である伊賀市中心市街地活性化協議会、㈱まちづくり伊賀上野、上野商工会議所をサポートし、空き店舗の活用を推進していくことで、まちの賑わいと地域経済の再生を図ります。	○中心市街地活性化事業 ・第2期中活計画進捗管理 ・ライトアップイベントお城のまわり	成果指標	空き店舗等活用件数					
			成果指標の説明	最新値を基準とした中活計画の考え方に基づいた累計値 中活計画では年5件の空き店舗等活用を目標としている。 令和2年度の最新実績値は3件活用なので、この数値を基準として中活計画の考え方に従い、R03年度8件、R04年度13件、R05年度18件、R06年度23件(累計値)とする。					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	3	9				23
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度(37/38位)、参画度(24/38位)ともに低い。
- ・特に満足度が低い。
- ・29歳以下の参画度、満足度が高い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	・街なみ環境整備事業により道路美装化、ポケットパーク整備等城下町の住環境の整備を進めた。 ・上記事業で整備した赤井家住宅を活用し、武家屋敷を活用した体験、展示施設及び貸館業務を行い、市民、来街者、観光客に利用いただいた。	計画通り進めている
	課題	平成20年度に作成した街なみ環境整備事業計画に基づき、住環境整備の整備が計画的に進み、赤井家住宅等城下町にふさわしい施設が運営されているが、庁舎移転後の方針決定の遅れ、コロナ禍による観光客の減少、地域商業の衰退等の影響により、ハード、ソフト両面から取り組むべき施策において、ソフト面の取り組みが伴わず、成果の可視化ができなかったため、満足度、参画度ともに低い結果となっていると考えられる。人口社会減に関しては、大規模宅地が小分け分譲されて建築も増えているが転出増となっている。	
2	効果が出ている点	・中心市街地活性化事業により、空き店舗活用に取り組み、事業主体である中心市街地活性化協議会を支援し、令和3年度に物件情報を公開した。	計画通り進めている
	課題	空き店舗の活用意向調査を実施した結果、実際に物件情報として公開可能となった件数が4件であり、地域特性として空き店舗であっても住居兼用の物件が多く、店舗部分の活用が進まないケースが多い。コロナ禍前まで実施してきた「まちなか市」が再開できていない。	
3			
4			

伊賀流自治の視点

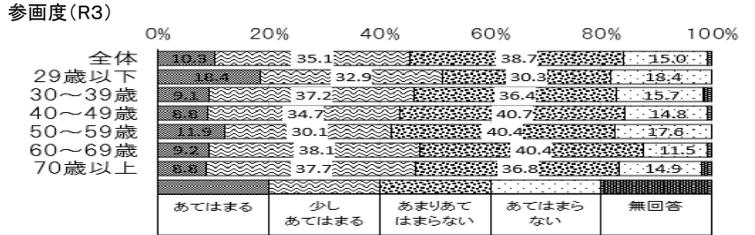
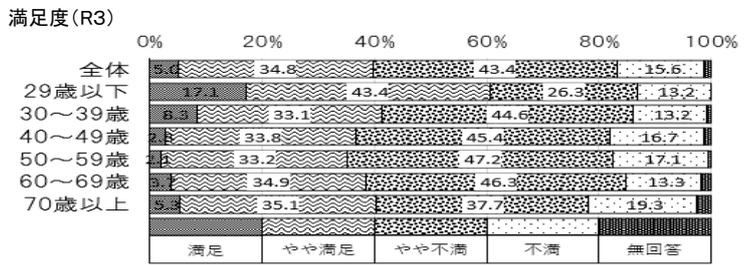
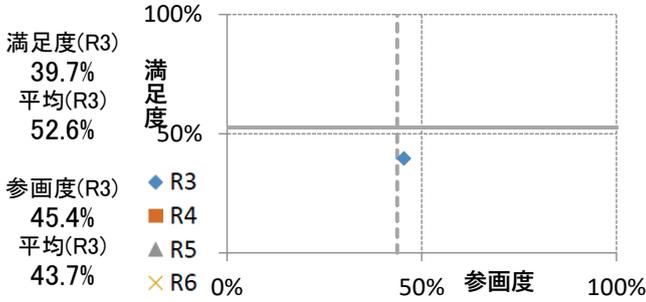
【担当部署】

産業振興部

- ・商店街の活性化や事業者の意欲の高揚を図るとともに、後継者の育成や円滑な事業承継を支援し、地場産業の振興や新たなものづくりを推進します。
- ・関係機関と連携し、中小企業・小規模企業の経営安定や振興策を推進します。
- ・地域特性を活かした企業誘致を推進し、産業用地開発をサポートします。
- ・地域の実情に応じたエネルギー施策を検討します。

【PLAN】	【DO】	【CHECK①】						
基本事業	2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1 商工業の活性化 意欲ある商店街等の販促活動を支援するとともに、空き店舗等を活用した魅力ある事業展開に取り組む事業者を支援します。 「伊賀ブランド」事業については、地域の特性を活かしたものづくりを推進するために、認定品のブラッシュアップや、ECサイトを活用した情報発信や販路拡大を支援するなど、官民連携による取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・商工振興経費 ・商工振興経費(コロナ経済対策) ・地場産業振興事業 ・伊賀ブランド促進事業 ・中心市街地等商店街活性化事業 ・交流促進施設維持管理経費 ・施設管理経費 	成果指標	上野商工会議所・伊賀市商工会 組織率					
		成果指標の説明	R1年度実績を基準とした組織率(会員数-地域外会員) / 商工業者数					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
		実績(%)	52.1	53.79				51.0
2 企業立地 既存の民間遊休地等への企業誘致を推進するとともに、民間主導の産業用地開発をサポートし、産業集積の形成をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地促進経費 	成果指標	新規立地企業件数					
		成果指標の説明	県調査の工場立地動向調査における新規立地企業件数(累計)					
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
		実績(件)	5	8				12
3		成果指標						
		成果指標の説明						
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
		実績()						
4		成果指標						
		成果指標の説明						
			現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
		実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度は平均値より低く、参画度は平均値を若干上回る。
- ・29歳以下の満足度が高い。
- ・参画度は年齢でのばらつきが少ない。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ経済対策として実施した事業継続応援給付金は972件、店舗改装促進事業補助金は148件、感染防止対策実施店ステッカー交付事業は102件の実績があり、一定の効果があった。 ・伊賀ブランドなどの地場産業振興については、PRイベントが中心となったが、官民連携のもと、パンフレットの改刷やPRツールの作成等、ウイズコロナを見据えた取り組みを行うことができた。 	計画通り進めている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、あらゆる物産イベントが中止となっている。新しい生活様式などを意識し工夫して、持続可能な事業計画を立てる必要がある。 ・長引くコロナ禍の影響を受け、低迷している事業者の生産意欲及び販売意欲を高揚させる取り組みが必要である。 ・道の駅や伝統産業会館など、コロナで低迷している当課所管施設の集客増加を図る施策検討が必要である。 	
2	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ・立地の相談があった企業に対して、三重県雇用経済部や企業用地整備課と連携しながら、伊賀市の魅力や情報及び当課の奨励制度等について丁寧に説明し、誘致を推進した。その結果、令和3年度は1社の誘致に成功した。 	計画通り進めている
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・奨励制度の内容が周辺他市と比べて見劣りする。インセンティブとするには、製造業に限らない業種への奨励、奨励金の増額、高度人材の確保に対する奨励が必要であると考えます。 ・市内の遊休地の情報確保が困難であり、事業者から工業用地についての問い合わせが多数あるが、紹介できる物件がない。 	
3			
4			

伊賀流自治の視点

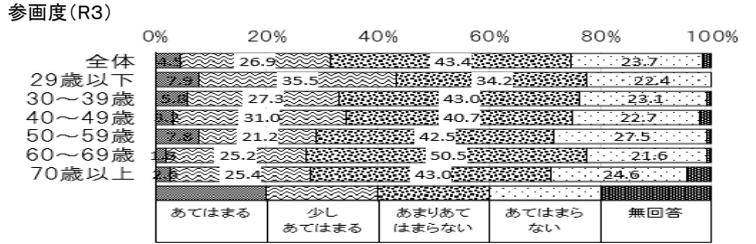
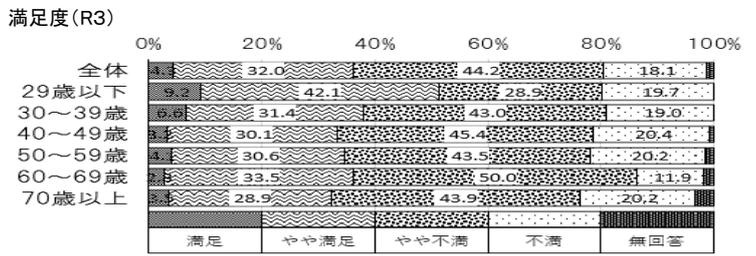
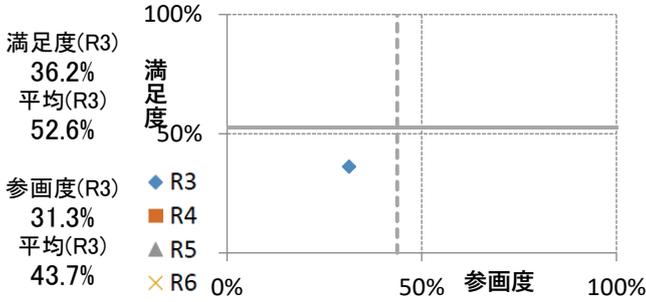
【担当当局】

産業振興部

・ 関係機関と連携し、誰もが働きやすく、働く意欲を持てるよう、多様な就業や雇用の拡大を進めます。
 ・ 創業希望者が円滑に起業し、事業が継続できるよう、関係機関と連携し、切れ目のない支援を行います。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	就労支援、職業相談 多様化する働き方に対応したきめ細やかな就労支援や職業相談に取り組むとともに、市内企業と求職者との情報交換の場を提供する等により、労働需給のマッチングを図ります。 高齢者職業相談やシルバー人材センターの事業活動への支援を通じて、高齢者の就業を促進するとともに、「いが若者サポートステーション」での自立訓練、就労体験等を通じて、若年者の職業的自立を支援します。 また、障がい者の雇用を促進し、女性が働き続けることができるよう、企業での職場環境づくりの取り組みを普及・啓発します。	・勤労者福祉会館管理運営経費 ・シルバー人材センター運営等経費 ・雇用、勤労者対策事業	成果指標	有効求人倍率(就業率)					
			成果指標の説明	三重労働局が発表する労働市場月報における伊賀管内の有効求人倍率の年度平均値					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(率)	1.31	1.27				1.33
2	創業支援 産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」や、商工関係団体、大学、金融機関等と連携し、創業塾や情報交流カフェの開催、創業相談や経営相談など、創業希望者への切れ目のない支援を行います。	・商工振興経費 ・産学官連携研究開発拠点運営経費	成果指標	起業数					
			成果指標の説明	起業数(累計)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	3	9				12
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・満足度、参画度ともにながら低い。
- ・年齢別では、29歳以下の満足度が一番高い。
- ・60歳以上69歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】		【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ・合同就職説明会への参加企業と参加学生等の増加を図るため、周知方法について地域創生課との連携や関係人口といわれる多様な主体とのネットワーク構築など手法を検討し実践する。 ・高齢者職業相談の各地域への広報活動の強化を図る。 	計画通り進めている
	課題		
2	効果が出ている点	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携研究開発拠点運営補助金の効果検証を行う。 ・伊賀市起業事業承継促進事業補助金の見直しを行う。(モノづくりの視点を追加) ・産業関係団体と連携し、伊賀流創業応援者隊の見直しを行う。 	計画通り進めている
	課題		
3			
4			